

現代民俗学会第 16 回運営委員会

【日時】：11 月 27 日(土) 午前 10 時 30 分～

【場所】：東京大学東洋文化研究所第二会議室

【出席者】：石本敏也、及川高、門田岳久、菅豊、塚原伸治、徳丸亞木、古家信平

一. 編集委員会（徳丸委員）

1. 特別寄稿

ノイズ氏の翻訳について、前回委員会の審議をふまえ、翻訳者に文体は文語体とする方針を伝えた。

訳注については、編集委員会側で目安を作成し、翻訳者に検討を依頼した。

翻訳者との協議の結果、冒頭のあいさつ部分を削除し、代わりに編集側で簡潔な付記を添える方向で検討中である。

2. 翻訳原稿

前回委員会で推薦された、及川高氏による “Humble Theory” (Dorothy Noyes, Journal of Folklore Research 45(1), 2008) の翻訳について、編集委員会で協議し、翻訳の寄稿を依頼した。

出版社である Indiana University Press に打診し、メールにより転載許可を受けた。

転載料については、広告掲載の代わりに転載料を無料とする提案をいただいた（この件は 9 月 28 日付で運営委員会のメール審議を行い 10 月 1 日に承認された）。現在は広告原稿の入稿待ちである。

Indiana University Press とノイズ氏にはできた雑誌を送ることが確認された。

3. 批評

年内には一部の寄稿依頼を開始する予定。

二. 研究企画委員（菅委員・門田委員）

1. 第 9 回研究会

次回研究会について概要と趣旨が説明された。第 9 回研究会は、年次大会のシンポジウムとして開催される。

タイトル：「民俗学は政治をとらえうるのか？」

日時：2011 年 3 月 19 日(土)13:00～

場所：東京大学東洋文化研究所 3 階大会議室

発表者：船戸修一（法政大学サステイナビリティ研究教育機構リサーチ・アドミニストレータ）、柏木亨介（聖学院大学非常勤講師）

コメンテーター：宮崎文彦（千葉大学国際教育センター特任研究員）

コーディネーター：門田岳久（日本学術振興会特別研究員：冒頭の趣旨説明担当）、室井康成（東京大学東洋文化研究所特任研究員：総合司会担当）

2. 年次大会シンポジウム（案）

タイトル：「政治と公民の民俗学(仮)」

日時：2011年5月21日(土)

10時～11時半 = 研究発表

11時半～ = 総会 のち昼食

13時～ = シンポジウム

場所：成城大学*

発表者：室井康成、大塚英志

コメントーター：近日中に決定予定

司会：門田岳久

*会場については小島委員を通して設備の整った大教室2つ（午前の発表・総会、午後のシンポジウム用）と小教室1つ（控え室用）を仮申請してもらっている。次年度分の使用申請であるため、年度明けに使用許可が下りる予定。

3. 年次大会での研究発表

エントリーの締め切りは2011年1月31日に決まった。要旨は1200字程度のものを要求する。

発表要旨を会誌に掲載可能かという打診に対し、編集から1頁のレイアウトならば可能だろうとの返答があった。

エントリーシート(案)・募集要項(案)のブラッシュアップがなされた（既にサイトで公開済み）。

三. 総務委員会（古家委員・石本委員・及川委員）

1. 会計報告

雑誌の売り上げについては、1号が売れていることが報告された。

2. ウェブ上にアップされるテキストの使用について

ウェブ上にアップされるテキストの使用について、学会としての指針を来年5月前には取りまとめることとなった。転載については特に「転載不可」のもののみ明示することに決まった。

3. 会員に対し住所変更の呼びかけ

年度末から年度初めにかけて住所変更が多くなるので、4月頃に会員に対して住所変更の連絡を請うお知らせをメールで出すことになった。

4. 次回運営委員会

次回運営委員会は、次回研究会に合わせ、2011年3月19日(土)に東京大学にて開催する。